

令和 4 年 6 月 13 日現在

機関番号：32689

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K21685

研究課題名（和文）在外投票における票買収の実証的研究

研究課題名（英文）Empirical Analysis of Buying Votes Across Borders

研究代表者

高橋 百合子（Takahashi, Yuriko）

早稲田大学・政治経済学術院・准教授

研究者番号：30432553

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、在外投票における票買収（Vote Buying）について、在米メキシコ移民の事例に着目し、サーベイ実験とインタビュー調査を用いて実証分析を行った。2018年の大統領選挙の在外投票において票買収が行われたかどうかについてサーベイ実験した。その結果、約32%の回答者が票買収を経験したことが分かった。更にメキシコ・プエブラ州において移民経験者および移民家族、および米国ロサンゼルス市・シカゴ市・ニューヨーク市における移民団体リーダーに対して聞き取り調査を行った。その結果、移民がメキシコへの家族の投票行動へ影響を与えることを目論み、在外においても票買収が行われているメカニズムが解明された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、世界規模で、経済的・政治的理由から他国への移民が増加する中、移民が送り出し国・受入国の政治に与える影響は増しつつある。こうした背景の下、本研究は、3つの点で重要な学術的・社会的意義を有する。第1に、国外で行われた票買収を分析の射程に含めることで、票買収を中心とする選挙不正の実態の解明を目指し、選挙不正研究の地平を広げる。第2に、サーベイ実験により、票買収による在外市民の民主的利権代表の阻害が阻まれたのかどうか、正確に把握することが可能となる。第3に、移民の越境的なネットワークを分析枠組みに組み込むことにより、国際移民研究の発展にもつながりうる。

研究成果の概要（英文）：This project explained whether and how vote buying occurred in external voting focusing on the case of Mexican immigrants in the US and combining the methods of survey experiments and interviews. Specifically, we conducted a list experiment using an online survey targeting Mexican immigrants in the US in the context of the 2018 presidential elections of Mexico. We found that approximately 32 percent of the respondents experienced vote-buying. Furthermore, this experimental analysis was complemented by qualitative interviews for returned immigrants and migrant families in Puebla, Mexico as well as the leaders of Mexican immigrant organizations in Chicago, Los Angeles, and New York. As a result, we verified the causal mechanism by which buying vote across borders occurred in external voting: political parties or candidates attempted to buy the expatriates' votes, expecting they influence voting decisions of their families in Mexico through a dense cross-border networks.

研究分野：政治学

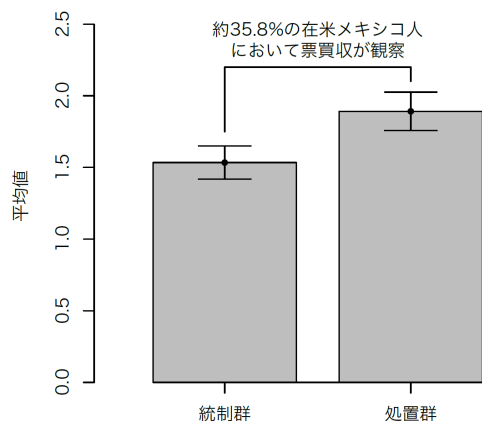
キーワード：在外投票 買票行為 移民 政治参加 メキシコ ネットワーク サーベイ実験

1. 研究開始当初の背景

本研究課題は、在外投票における票買収（Vote Buying）の実態およびメカニズムについて明らかにすることを目的とする。過去 20 年間、新興民主主義諸国を対象として、票買収についての研究が盛んに行われてきた。これらの国々では、民主化とともに、国外在住の市民に対する在外投票の権利が拡大された。しかし、民主化して日が浅い国では、概して選挙管理制度が未整備なことが多く、とりわけ国外で実施される在外投票における選挙不正への監視は弱い。こうした状況下、政治家は国外在住の市民の票を買収する動機を抱くことが予想される。さらに、新聞などのメディアでは移民を対象とした票買収が指摘されているが、在外投票において、誰が買収の対象となり、どのようなメカニズムを通して票買収が行われるのかについて、体系的な研究は見当たらない。問題意識を共有する研究代表者の高橋、研究分担者の飯田、宋は、この未解決の問いに挑む重要性を認識し、在外投票における票買収について、サーベイ実験、インタビュー調査、ネットワーク分析による定性的・定量的な混合手法を用いた実証分析を行うため、本研究課題を開始するに至ったとの背景がある。

2. 研究の目的

本研究は、在米メキシコ移民の票買収について予備的分析として実施した、サーベイ実験の結果から得られた新たな研究課題に挑むという、明確な問題意識を出発点としている。代表者の高橋と、分担者の飯田、宋は、在米移民を多数送り出し、2006 年に在外投票が導入されたメキシコに焦点を合わせ、2018 年 7 月 1 日に実施された連選挙を対象とした予備的分析を行った。1,123 名の在米メキシコ移民を対象にリスト実験（処置群にのみ票買収について質問し、経験した項目数の平均値を比較することによって票買収の程度を推定する方法）を行った結果、下図が示すように、約 35.8%の在米メキシコ移民が金銭取引を含む票買収を経験したとの結果を得た（後に再分析を行った結果、約 32%との結果を得た）（Iida, Song, Takahashi, and Tovar 2019, Figure 1）。



この分析結果から、以下の 3 つの研究課題が明らかになった。

- (1) 限定的なサンプルに基づく 1 回の実験結果に基づき、票買収の事実を結論付けることは可能か。
- (2) どのような移民に対して、どのような経路で買収が行われたのか。
- (3) 越境的な票買収は、どのような組織的・人的ネットワークを介して行われたのか。

等、新たな研究課題が明らかになった。本研究はこれらの課題に本格的に取組む試みであり、以下の方法にもとづいて研究を遂行する。なお、人口の約 1 割が米国に移民しているメキシコの事例を扱い、定性的・定量的手法を組み合わせ研究を行う。

3. 研究の方法

前述の 3 つの研究課題に取り組むため、本研究を以下の要領で遂行することを計画した。

【課題（1）および（2）：サーベイ実験（飯田・高橋・宋）】

- ① メキシコの政治家による在米移民に対する選挙活動について文献、インタビュー調査を行うことを通して、在外投票における票買収のメカニズムを解明する。
- ② 移民の投票行動、その他の政治参加の形態を調査し、どのような属性の在外投票者が票買収を経験する可能性が高いか、検証する。

【課題（2）：ロサンゼルス・シカゴ・ニューヨーク市での現地調査（高橋）】

- ① メキシコ系移民組織、移民組織間の関係、移民組織と送り出し国・地域との関係について、米国内でメキシコ系移民の大きなコミュニティが存在するロサンゼルス市、シカゴ市、ニューヨーク市を訪れ、移民組織リーダーへのインタビューを通して情報収集行う。

【課題（3）：ネットワーク分析（飯田・高橋・宋）】

- ① 在米メキシコ移民の居住地、出身地域別の移民組織、移民送り出し地域についての地理的情報を収集し、越境的な人的・組織的関係の構造を探るためネットワーク分析を実施する。
- ② 具体的に、出身地を同じくするメキシコ系移民同市がコミュニティを形成し、移民先と出身地の間に越境的なネットワークが形成されることが指摘されている。

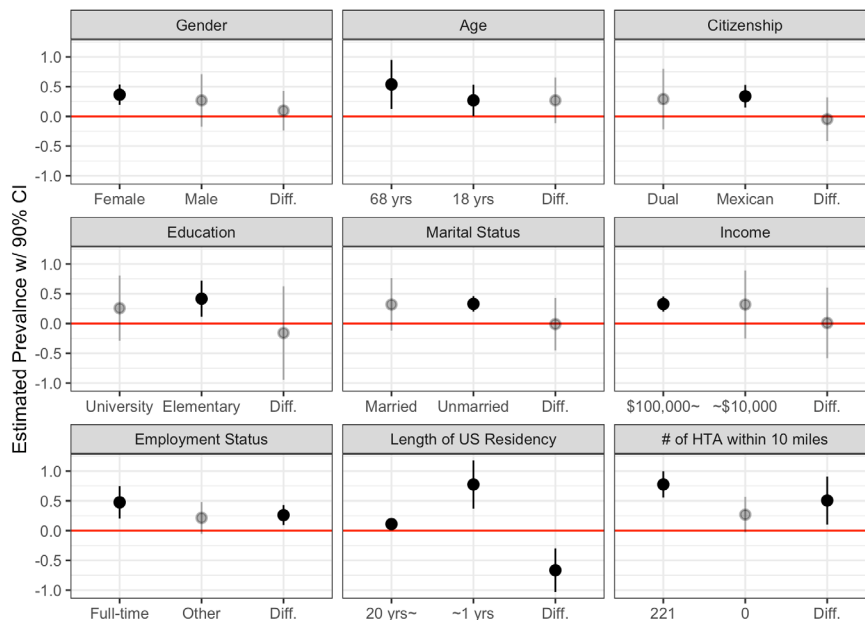
4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

上記の研究計画に基づいて研究を実施した結果、以下の研究成果を得ることができた。

①リスト実験結果の回帰分析

上記のリスト実験の結果を分析する際、票買収を経験したかどうかという実験項目に加え、回答者の党派性、同郷者組織（Home Town Associations: HTAs）への近接性、社会経済的属性（性別、年齢、所得、学歴、就業有無等）、米国での居住年数といった変数が、票買収を経験する蓋然性に及ぼす影響を検証した。その結果、下図にみられるように、本研究が重要な仮説として設定した「同郷者組織への近接性（# of HTAs within 10 miles）」が正の影響を与えていることが明らかになった（Song, Iida, Takahashi, and Tovar 2022, Figure 1）。すなわち、メキシコ国内の出身地を同じくするメキシコ人の組織の近くに居住する人ほど、票買収を経験する蓋然性が高まることが明らかになった。この分析結果を、2019 年度米国政治学会で報告した。同学会報告での質疑応答を通して、本研究課題の目的である、票買収のメカニズムを探求する必要性を再確認することができた。



②票買収のメカニズムの解明

2019 年 12 月には、メキシコ・プエブラ州において移民経験者および移民家族に対して聞き取り調査を行った。その結果、在米メキシコ移民がメキシコへの家族の投票行動へ影響を与えることを目論み、在外においても票買収が行われているメカニズムを明らかにすることができた。

③在米メキシコ移民が出身地との間に構築された越境的ネットワークの分析

米墨間の越境的ネットワークの全容を解明するためには、メキシコの出身地と米国内の居住地の位置情報及びつながりを探求する必要がある。メキシコ外務省が公表している、全米における 3000 組織に及ぶ HTAs のリスト（名称、住所、メキシコの出身地域等のデータが掲載）を入手することができたが、各 HTAs がメキシコのどの地域を代表するかについてのデータには欠損が多く、越境的ネットワークを推定するには至らなかった。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

近年、ラテンアメリカを中心とする新興国における票買収研究は盛んに行われているが、在外投票における票買収の研究は国内外においてなされておらず、国際的にみても、本研究課題が初めての試みと言える。本研究結果をまとめた論文は、数回に渡る修正を経て、2022 年 6 月現在、政治学分野で、国際的にも評価の高い査読付き英文ジャーナルである *Canadian Journal of Political Science* に条件付きで採択されている。本誌に掲載された後には、政治学における票買収研究に重要なインパクトを及ぼすことが期待される。

(3) 今後の展望

上記 (1) で述べたように、本研究課題においては、米墨間で築かれた、在米メキシコ移民の出身地と受け入れ先を結ぶ越境的ネットワークを分析するには至らなかった。今後、在米メキシコ移民組織が所有するデータベースへのアクセスを通して、個人情報を選定しない方法でネットワークの全容を解明することが課題として浮かび上がった。この課題を明らかにすることは、在外投票と国内投票パターンとの関係性を明示することにつながり、ひいては在米移民が出身地の家族の投票行動へ影響を与えているのかどうか、より説得的な説明を提供することが可能になることが予想される。

(4) 当初予期していない事象、およびそこから得られた知見

当初、上記の課題 (2) について、2020 年度、米国内でメキシコ系移民の大きなコミュニティが存在するロサンゼルス市、シカゴ市、ニューヨーク市を訪れ、移民組織リーダーへのインタビュー

一を通して、在外投票の因果メカニズムを定性的に分析することを予定していた。ところが、新型コロナウイルス蔓延により、現地調査の実施が不可能となった。現地調査に代わる方法として、zoom による在米メキシコ移民組織リーダーへ聞き取り調査をすることが可能となり、票買収のネットワークについての理解を深めることができた。このことから、今後、現地調査が必要と考えられてきたインタビューなど、遠隔地から実施することも可能であるとの知見を得ることができた。その反面、対面インタビューを実施した場合と、同様の情報の質が担保されるかどうかは未解明である。今後、対面・遠隔インタビューの効果的実施方法、および情報の質について事例を蓄積することは、定性的研究方法の幅を広げることにつながることを期待される。

引用文献

- Iida, Takeshi, Jaehyun Song, Yuriko Takahashi, and Jesús Tovar. 2019. "Buying Votes Across Borders? A List Experiment of Mexican Immigrants in the US." 2019 年度アメリカ政治学会研究大会報告論文、2019 年 8 月 29 日-9 月 1 日、ワシントン DC。
- Song, Jaehyun, Takeshi Iida, Yuriko Takahashi, and Jesús Tovar. 2022. "Buying Votes Across Borders? A List Experiment of Mexican Immigrants in the US." *Canadian Journal of Political Science* に条件付き採択。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Song, Jaehyun, Takeshi Iida, Yuriko Takahashi, and Jesus Tovar	4. 巻 未定
2. 論文標題 Buying Votes Across Borders? A List Experiment of Mexican Immigrants in the US	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Canadian Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Yuriko Takahashi, Jose Luis Estrada
2. 発表標題 Noticias falsas, votacion incorrecta y arrepentimiento post-electoral: el caso de la eleccion presidencial de 2018 de Mexico
3. 学会等名 VIII Congreso de ALICE (Asociacion Latinoamericana de Investigacion en Campanas Electorales) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Jaehyun Song, Takeshi Iida, Yuriko Takahashi, and Jesus Tovar
2. 発表標題 Buying Votes across Borders? A List Experiment on Mexican Immigrants in the US
3. 学会等名 The 2019 Annual Meeting of the American Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuriko Takahashi
2. 発表標題 Compra de Votos Migrantes: la Reforma Eectoral de 2014-2015 y Votos Extraterritoriales en la Eleccion del 1 de Julio de 2018
3. 学会等名 X Congreso Latinoamericano de Ciencia Politica (Asociacion Latinoamericana de Ciencias Politicas) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	飯田 健 (Iida Takeshi) (50468873)	同志社大学・法学部・教授 (34310)	
研究分担者	SONG JAEHYUN (Song Jaehyun) (70822617)	関西大学・総合情報学部・准教授 (34416)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	トバル ヘスス (Tovar Jesus)		
研究協力者	エストラダ ホセ・ルイス (Estrada Jose Luis)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------